



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月29日

上場会社名 アイカ工業株式会社
 コード番号 4206 URL <http://www.aica.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小野 勇治

問合せ先責任者 (役職名) 財務統括部長 (氏名) 市川 豊明

TEL 052-533-3135

四半期報告書提出予定日 平成30年2月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	119,347	8.4	14,474	6.8	15,015	8.5	8,971	6.3
29年3月期第3四半期	110,053	1.7	13,557	16.9	13,841	15.8	8,441	17.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 12,271百万円 (96.0%) 29年3月期第3四半期 6,259百万円 (4.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	137.42	137.34
29年3月期第3四半期	129.29	129.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	170,849	125,444	70.5
29年3月期	164,634	119,685	69.8

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 120,417百万円 29年3月期 114,898百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		38.00		47.00	85.00
30年3月期		42.00			
30年3月期(予想)				48.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	159,000	4.9	19,000	5.0	19,400	5.6	11,700	5.7	179.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	67,590,664 株	29年3月期	67,590,664 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	2,304,635 株	29年3月期	2,303,875 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	65,286,448 株	29年3月期3Q	65,287,232 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、米国の政策動向や東アジアの政治的緊張の影響が懸念されるなか、堅調な輸出や設備投資に支えられた企業業績の回復、及び雇用環境の改善等により、緩やかながら回復基調が続きました。また、アジア・オセアニア地域の経済は、インドで景気に弱さが見られたものの、中国は底固く推移し、インドネシア等のアセアン地域では好調な輸出や個人消費に支えられ概ね堅調に推移しました。

国内建設市場においては、賃貸住宅の供給過剰感から借家や持家の着工が一服し住宅着工件数が減少に転じました。非住宅関連は、企業の設備投資やインバウンド効果によるホテルの新築・改修需要を背景に着工面積の回復が見られました。

このような経営環境の下、当社グループは、中期経営計画「C&C2000」の方針に基づき、社会課題の解決に貢献する商品群の拡充、次世代を担う注力分野の育成、アジア太平洋地域における接着剤やメラミン化粧板の販売強化などを推進いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高119,347百万円（前年同四半期比8.4%増）、営業利益14,474百万円（前年同四半期比6.8%増）、経常利益15,015百万円（前年同四半期比8.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益8,971百万円（前年同四半期比6.3%増）となりました。

セグメントの業績については次のとおりであります。なお、セグメント間の内部売上は除いております。また、前連結会計年度において「建装材セグメント」「住器建材セグメント」と分けて報告していましたが、第1四半期連結会計期間より「建装建材セグメント」として統合して記載する方法に変更しております。以下の前期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(化成品セグメント)

接着剤系商品は、国内においてはフェノール樹脂系の合板用接着剤や、施工用接着剤が好調に推移すると共に、海外においてもアジア太平洋地域における接着剤・産業用樹脂の需要を取り込むことができた結果、売上を伸ばすことができました。

建設樹脂系商品は、建築・土木用の補修・補強材は好調に推移しましたが、新築住宅向けの外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が低迷したことなどから、売上が前年を下回りました。

非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、国内太陽光市場の低迷によりホットメルトが前年を下回ったものの、化粧品や拡散材用途の有機微粒子、スマートフォン関連の電子材料、繊維・紙加工用途のアクリル・コンパウンド商品が好調に推移し、売上を伸ばすことができました。

このような結果、売上高は60,846百万円（前年同四半期比10.4%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は5,211百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

(建装建材セグメント)

メラミン化粧板は、国内においては、高い意匠性と指紋などの汚れが目立ちにくい特性をもつメラミン化粧板「セルサス」が好調に売上を伸ばすことができました。また、海外においても、インドやインドネシア、中国、タイ、ベトナムを中心に売上を伸ばすことができました。

ボード・フィルム類は、汎用的なポリエステル化粧合板や木口化粧材が苦戦したものの、新柄を追加した粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」は売上を伸ばし、全体としてはほぼ横ばいで推移しました。

メラミン不燃化粧材「セラル」は、キッチンパネル用途を中心に、教育施設や店舗の改修需要や、オフィス・倉庫・工場の新築需要を獲得するとともに、駅のトイレや医療介護施設などでは「セラル消臭タイプ」の採用が拡大し、売上を伸ばすことができました。

不燃建材は、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト・カラー」が教育施設や医療福祉施設の需要を、浴室の壁面を短工期で手軽に貼り替えられる「バスフィットパネル」がホテルの浴室改修需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。

カウンター・ポストフォーム商品は、メラミン化粧板の加工品、人工大理石「コーリアン」、高級人造石「フィオレストーン」が好調に推移し、売上を伸ばすことができました。特に、幼児用手洗いカウンターは保育施設の新設需要を取り込み大きく売上を伸ばしました。

建具・インテリア建材は、医療・介護施設に適した機能引戸「U.D.（ユニバーサルデザイン）コンフォートシリーズ」や、非住宅施設向けのトイレブースが好調でしたが、住宅向けの建具シリーズが前年を下回り、売上は前年を下回りました。

このような結果、売上高は58,500百万円（前年同四半期比6.5%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は11,174百万円（前年同四半期比6.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は119,294百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,956百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が2,368百万円、商品及び製品が743百万円増加したことによるものであります。固定資産は51,555百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,258百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産が3,123百万円増加したことと、無形固定資産が857百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、170,849百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,214百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は38,207百万円となり、前連結会計年度末に比べ389百万円減少いたしました。これは主に電子記録債務が1,738百万円増加したことと、未払法人税等が1,823百万円減少したことによるものであります。固定負債は7,197百万円となり、前連結会計年度末に比べ844百万円増加いたしました。これは主に固定負債その他が971百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、45,405百万円となり、前連結会計年度末に比べ455百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は125,444百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,758百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益8,971百万円及び剰余金の配当5,810百万円並びにその他有価証券評価差額金が2,080百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.5%（前連結会計年度末は69.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績は概ね計画通りに推移しており、平成29年10月26日公表の業績予想からは変更ありません。今後の景気の動向によって通期の業績見込みについては見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,646	47,593
受取手形及び売掛金	50,549	52,918
商品及び製品	6,292	7,036
仕掛品	956	1,120
原材料及び貯蔵品	4,901	5,175
その他	5,272	5,703
貸倒引当金	△281	△253
流動資産合計	115,338	119,294
固定資産		
有形固定資産	30,024	30,016
無形固定資産		
のれん	1,318	341
その他	1,941	2,061
無形固定資産合計	3,259	2,402
投資その他の資産		
投資有価証券	14,510	17,389
その他	1,519	1,764
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	16,012	19,135
固定資産合計	49,296	51,555
資産合計	164,634	170,849
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,541	22,343
電子記録債務	4,456	6,195
短期借入金	1,314	1,165
未払法人税等	3,255	1,431
賞与引当金	1,760	984
その他	6,268	6,086
流動負債合計	38,596	38,207
固定負債		
長期借入金	532	374
退職給付に係る負債	1,190	1,222
その他	4,629	5,601
固定負債合計	6,352	7,197
負債合計	44,949	45,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,271	13,279
利益剰余金	87,570	90,731
自己株式	△2,007	△2,010
株主資本合計	108,726	111,892
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,222	6,303
繰延ヘッジ損益	△9	△3
為替換算調整勘定	1,822	2,056
退職給付に係る調整累計額	137	168
その他の包括利益累計額合計	6,172	8,524
新株予約権	36	36
非支配株主持分	4,749	4,990
純資産合計	119,685	125,444
負債純資産合計	164,634	170,849

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	110,053	119,347
売上原価	76,829	84,696
売上総利益	33,224	34,650
販売費及び一般管理費	19,666	20,176
営業利益	13,557	14,474
営業外収益		
受取利息	88	120
受取配当金	259	335
その他	510	472
営業外収益合計	857	928
営業外費用		
支払利息	27	44
売上割引	113	120
為替差損	120	7
その他	312	213
営業外費用合計	574	386
経常利益	13,841	15,015
特別損失		
固定資産売却損	333	-
特別損失合計	333	-
税金等調整前四半期純利益	13,507	15,015
法人税、住民税及び事業税	4,236	4,530
法人税等調整額	192	547
法人税等合計	4,428	5,077
四半期純利益	9,078	9,938
非支配株主に帰属する四半期純利益	637	966
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,441	8,971

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	9,078	9,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,225	2,080
繰延ヘッジ損益	△1	6
為替換算調整勘定	△4,046	192
退職給付に係る調整額	32	31
持分法適用会社に対する持分相当額	△28	22
その他の包括利益合計	△2,819	2,333
四半期包括利益	6,259	12,271
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,203	11,323
非支配株主に係る四半期包括利益	56	947

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	55,128	54,925	110,053	-	110,053
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,723	-	1,723	△1,723	-
計	56,852	54,925	111,777	△1,723	110,053
セグメント利益	4,830	10,494	15,325	△1,767	13,557

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,767百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,768百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	60,846	58,500	119,347	-	119,347
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,918	-	1,918	△1,918	-
計	62,764	58,500	121,265	△1,918	119,347
セグメント利益	5,211	11,174	16,385	△1,911	14,474

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,911百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,912百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は従来接着剤を中心とした樹脂製品を取り扱う「化成品」、主に非住宅市場で使われる建材を取り扱う「建装材」及び主に住宅市場で使われる建材を取り扱う「住器建材」と報告セグメントを分けておりましたが、用途開拓により「建装材」及び「住器建材」の市場性に大きな差がなくなってきたことからこの二つを統合し、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを「化成品」、「建装建材」に区分変更することといたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。